

【*Knowing, Teaching and Learning History* 読書会】

Introduction (後半部分 : pp.7-13)

担当 : 池尻良平 (東京大学大学院情報学環)

ikejiri@iii.u-tokyo.ac.jp

概要 : 近年の歴史教育に関する論点・論争を大きく 3 つ挙げ (赤字部分)、それに関連した研究報告をしている章を紹介している。次に、研究報告だけでなく教室での実践に焦点を当てた章を紹介している。最後に、全ての章を貫くテーマを 6 つ挙げている。

■**選択、信念、理解 (p.7)**

①「どの歴史が教えられるべきか」

- ・ 国家 (もしくは世界) の発展に関する特定のナラティブに触れることと、学問の実践や思考習慣を学ぶことの関係性は何なのかについては、以下の 2 つの章で述べられている。

6 章 : Gray B. Nash | The "Convergence" Paradigm in Studying Early American History in the Schools

7 章 : Ross E. Dunn | Constructing World History in the Classroom

- ・ 歴史を教えることは選択 (choice and selection) を含む。
- ・ 選択は避けられないし、単純にもっと多くのものを含めることもできない。
- ・ 上記の章はこのジレンマの解決法も指摘している。

■**共有された理解 (pp.7-8)**

②「どのような過去についての信念が、普通の市民における彼ら自身への理解と現代の世界の理解を形成しているのか」

2 章 : James V. Wertsch | Is It Possible to Teach Beliefs, as well as Knowledge about History?

→ソビエト崩壊時のエストニアにおける歴史的な意識に関する研究 (エストニアの人々は「公式の」歴史の構成物を記憶している一方、実際的には過去に対する相反する説明や他の説明を深く信じていることを明らかにしたもの) を引用しながら、過去についての知識と信念の違いをはっきりと区別している。

- ・ 過去についての信念をテーマにした大規模研究プロジェクトとして、以下の 2 つがある。

14 章 : Roy Rosenzweig | How Americans Use and Think about the Past: Implications from a National Survey for the Teaching of History

→「アメリカの成人に対する調査」を実施

13章：Bodo von Borries | Methods and Aims of Teaching History in Europe: -- A Report on Youth and History

→「ヨーロッパの”Youth and History”プロジェクト」（ヨーロッパと中東の 27 の国における 32,000 人の生徒の調査）を実施

・若い人々の信念をよりつぶさに検証した研究としては以下の章が該当する。

15章：Linda S. Levstic | Articulating the Silences: Teachers' and Adolescents Conceptions of Historical Significance

→生徒の持っている歴史的意義についての信念と、教師が授業で取り上げるべきだと思っている出来事や論点との間のつながりが途絶えている状態について描いている。

・生徒の理解や信念を理解する課題について取り組んでいるものとしては、以下の 3 つの章が該当する。

12章：Gaea Leinhardt | Lessons on Teaching and Learning in History from Paul's Pen

19章：James Voss and Jenifer Wiley | A Case Study of Developing Historical Understanding via Instruction: The Importance of Integrating Text Components and Constructing Arguments

16章：Sam Wineburg | Making Historical Sense

・上記の章では、信念は広い範囲の論点をカバーしていること、それらの全てがすぐに明らかになるものではないこと（何の歴史資料が信じられ、どのように対立する資料を扱うかについて、歴史的な議論の性質などを含む）について紹介している。

11章：Peter Lee and Rosalyn Ashby | Progression in Historical Understanding among Students Ages 7-14

→異なる歴史的な説明間での対立の対処における、生徒の精緻化の発達に焦点を当てている。

■集合的記憶と批判的歴史の間（pp.8-9）

③「政治的な目的と歴史教育について」

3章：Desmond Morton | Teaching and Learning History in Canada

→歴史を”Canadian unity”を育成する手段として考えているカナダの人たちにとって、歴史的思考を扱う学問的アプローチを採用することは興奮を覚えることなのかについて問うている。

1章：Peter Seixas | Schweigen! die Kinder! or, Does Postmodern History Have a Place in the Schools?

→ポストモダンな学校カリキュラムの生産的な中間地点を提供するのかについて問うことで、

集合的記憶と批判的歴史の二項対立の乗り越えに取り組んでいる。

■改革に向けた助言 (pp.9-11)

・上記の3つの論点・論争については、研究による取り組みだけでなく、以下の章のように授業実践による取り組みもある。

18 章 : Christine Gutierrez | Making Connections: The Interdisciplinary, Community of Teaching and Learning History

→学校内のコミュニティだけでなく、学校外のコミュニティにおける歴史の教えと学びを扱っている。

17 章 : Robert B. Bain | Into the Breach: Using Research and Theory to Shape History Instruction

→認知科学や文化心理学と合わせて授業実践を描き、「歴史教育の学問」について論じている。

20 章 : Veronica Boix-Mansilla | Historical Understanding: Beyond the Past and into the Present

→歴史と現代を接続させる授業を実践し、その困難性を論じている。

21 章 : Peter N. Stearns | Getting Specific about Training in Historical Analysis: A Case Study in World History

→世界史のコースを受講している学部生に対する、歴史的な分析課題について論じている。

22 章 : Charles A. PerFetti | The Sourcer's Apprentice: A Tool for Document-Supported Instruction

→歴史家のように歴史の資料を読めるようにするための高校生向けのソフトウェアを開発・紹介している。

・改革に向けた助言には、プログラム面のものだけでなく、サポートの構造面のものもあり、以下の章が該当する。

8 章 : Diane Ravitch | The Educational Backgrounds of History Teachers

→歴史の教師がいかにして自分の知らない歴史を生徒に教えているかを質的に調査している。

9 章 : Peter Vinten-Johansen | A Catwalk across the Great Divide: Redesigning the History Teaching Methods Course

→歴史家と歴史の教師の両方で、大学の歴史教育のコースを教えている事例を紹介している。

10 章 : Shelly Weintraub | "What's This New Crap? What's Wrong with the Old Crap?" Changing History Teaching in Oakland, California

→専門的な発達、歴史のスタンダード、教材の開発、生徒の評価を一緒に結びつけることについて

での示唆を与えている。

■コンセンサスを見つける (pp.11-13)

・この本における統一的なテーマは5つある。

- ①多くの区分を超えた話をすることの生産性
- ②心理学における認知革命と歴史編集の革命の2つからくる変化に対する意味
- ③歴史教育における論点の複雑さの反映
- ④過去を深く理解することと、歴史を深く理解することの両方について探っていること (以下の章を抛り所にしつつ)

5章 : Denis Shemilt | The Caliph's Coin: The Currency of Narrative Frameworks in History Teaching

- ⑤歴史は我々が記憶の実践と呼んでいるものの全体における個別特殊なものであり、特殊な実践であるという事実
- ⑥「教えることの学問」についての例証 (以下の章を抛り所にしつつ)

17章 : Robert Bain | Into the Breach: Using Research and Theory to Shape History Instruction

※用語

- ・ narrative 「ナラティブ」 「物語」
- ・ historical significance 「歴史的意義」
- ・ practical past 「実用的な過去」
- ・ cognitive revolution 「認知革命」